

垣根を越えた試行錯誤の先に見えるもの



左から久山町長 西村 勝、株式会社グッデイ代表取締役社長 柳瀬 隆志 氏 役場ロビーにて

空気が違う

西村 本町のまちづくりに共感いただき、庁舎緑化事業などで一緒に働かせていただけていることを大変嬉しく思います。

柳瀬 久山町は、すごく温かみがある一方で美しく洗練されていますよね。一言で言えば空気が違う。さらに、町長から半世紀のまちづくりの話聞いて、ちくはぐさのない町の理念と今のありかたにますます興味が湧きました。

西村 町の良さについて、私自身は子どものときに全く気付いていませんでした。だからこそ、今の子どもたちが大人になったときに、胸を張って「あの久山町出身です」と言えるような町にしたいと思っています。そんな中で、本町の自然は、今まで以上に大切な資源になると考えています。

生活の身近にある自然

柳瀬 久山町との庁舎緑化の取り組みでは、多くの町民の方が参画している様子から、日頃から緑に親しまれてい

全国に示せる新しいモデルを

柳瀬 問題提起をする人はたくさんいますが、課題を解決している人は意外と少ないですね。今後、一企業として社会課題と向き合い、解決できる手段を提供していきたいです。

西村 一步を踏み出すかどうかですね。小さな挑戦を積み重ねているからこそ、振り返ればあのときのあれは意味があったと思える人生があるように、まちづくりも一緒だと思います。

柳瀬 動きやすい規模感も大事ですね。昔みたいに事業が伸びている中であれば、店舗拡大にメリットがありましたが、今そんなに伸びていない中で、会社の方針や価値観を明確にして、同じ志の方と組んでやる方が新しい可能性があると思っています。

西村 規模に応じた社会的役割があり、小さいからこそ見えることや手が届くことは多いと考えています。違う役割をもつ組織同士が同じ価値観で集い、大きな組織になっていくと面白いですね。今は、行政だけでまちづくりができる時代でもない。町民の皆さまや企業、大学なども含めて、それぞれの立場の強みを生かしていくことが全国モデルになると信じ、今まさに試行錯誤の途中です。

る気がしました。

西村 そうですね。緑や自然が生活の身近にあるということだと思います。人々の心の穏やかさやコミュニティのつながりなどを支える福祉的役割も大きいです。

柳瀬 脱炭素とか、義務感だけで緑化を進めようとするのは何か違いますよね。

西村 自分自身の楽しみとつながったとき、ぐっと身近に感じますよね。

100点を目指さない

西村 御社はコロナ禍でもデータをうまく活用することで業績を伸ばされていますよね。

柳瀬 私自身の話になりますが、子どもの頃にプログラミングを勉強しなければと思って本などを買って読んでいたのですが、全然身につきませんでした。でもそれが、自社の業績改善のために学び始めると、どんどん面白くなりました。結果的にそこで開発した仕組みが新しい自社サービスになったという好循環を生み出しました。



柳瀬 隆志

1976年福岡県生まれ。東京大学経済学部を卒業後、2000年三井物産を経て2008年嘉穂無線ホールディングス株式会社に入社。2016年6月嘉穂無線ホールディングス株式会社および株式会社グッデイ社長に就任。著書に『なぜ九州のホームセンターが国内有数のDX企業になれたか』(ダイヤモンド社)がある。

西村 自治体においても、町民の暮らしを豊かにするためにデータを活用していくという方向にあります。でもその前に、そのために必要な数字やデータとは何かをきちんと考える必要があります。行政としては、多数決で決めるのではなく、一人ひとりの考えを蓄積、分析し、活用することが大切だと思います。

伸びゆく取り組みにしっかりと目を向けることが大事ですね。そして100点満点を目指さない。失敗しても、次に失敗しないために何を考えるかを考えることが学びだと思います。今の学びは、正解を当てることに向いていて、あらかじめ用意されたものに答えを当てにしているって思うと面白くないですね。**西村** そのためには、子どものうちから試行錯誤しながら形作る機会を数多く積み重ねていくことが大切だと思います。そこで、昨年7月から「ひさやまてらこや+」を始めました。

立場は違っても、志は同じ

柳瀬 お話を聞いていて、全然違う業種、立場なのに、何か同じようなことを目指している感じがすごく面白いですね。

西村 企業も自治体も目指している方向は同じで、ただ役割と手段がちよっと違うだけだと思います。行動しよう、そして未来を描こう。それが私たち世代のキーワードになるのかもしれないね。

注釈

(※)「ひさやまてらこや+」: デザイン思考で創造力(生きる力)を育む、久山町独自の学びのプログラム